

日本食道学会 50周年を迎えて



日本食道学会 理事長

松原 久裕

(千葉大学大学院 医学研究院 先端外科学)

日本食道学会は日本食道疾患研究会として1965年に設立し、今年度で50周年を迎えます。徳島市において、この年の10月に第1回研究会が開催されたようです。

第50回研究会を当番世話人として主催された山田明義先生が「食道疾患研究会30年の歩み」という記念講演会を企画され、この講演会の内容を立派な冊子として発刊されました。食道疾患研究会の沿革については、この冊子の最初の部分に記載されております。中山恒明先生を中心に、その前年に準備委員会が結成され、10月に会長、桂重次先生、第1回当番世話人として赤倉一郎先生が主催されました。その当時の出席者は100名前後だったようです。その後、発展を重ねて参りましたが、30年の歩みの詳細については名誉会長の掛川暉夫先生がご講演なさっており、記念講演「食道疾患研究会30年の歩み」というこの記録集に非常にわかりやすく記載されております。当研究会の歩みがそのまま食道癌治療の発展の歴史であることがひしひしと伝わって参ります。

その精神を引き継ぎながら、さらなる発展をめざし、2002年にその当時の会長であった磯野可一先生が決断、世話人会での承認を受け、次期当番世話人であった今村正之先生が初代日本食道学会会長として日本食道学会に発展的移行することとなり、新たな歩みを進めることとなりました。

私自身は、当科の磯野可一教授が会長であり、事務局がその当時千葉大学第2外科に置かれていたため、関連病院の出張から大学に戻った1994年頃から事務局の業務の下働きが始まりました。その頃はまだ紙で収集していた全国登録や業績目録の作業が大変だったことを記憶しています。

1999年からは幹事を拝命し、事務局の運営等にも積極的に関わるようになりました。2002年の学会への移行に際しては、今村会長のご指導を頂きながら、事務処理を進めました。この当時、最も重要な課題は独自の英文誌の発行であり、「日本からの情報発信媒体として何とでも必要である」との認識は一致しておりましたが、経費がかかるため財政基盤のできていない新しい学会が持ちこたえられるかという危惧があり、議論が交わされました。最終的に、「独自の英文誌を持たずして、学会の意義はない」との決断のもと、Esophagusが発刊されることが決まり、初代編集委員長の安藤暢敏先生とともに発刊準備に邁進いたしました。現在は安定的に発行できるようになり、またImpact Factorも付いておりますがMedlineへの収録は達成されておらず、今後さらに素晴らしい雑誌とするべく一層の努力が必要であり、本学会の重要課題の1つであります。

食道疾患研究会から50年、学会としては13年目を迎えたわけですが、前述の英文誌とも関係しますがInternational Society for Diseases of the Esophagus (ISDE) との連携のあり方を含めた当学会の国際化、国際連携も重要な課題です。アジアの諸国からは、扁平上皮癌をメインに日本を中心とした連携も求められております。当学会で認定している食道科認定医、食道外科専門医についても専門医機構の専門医制度が始まる中、今後の方向性、進め方も重要な課題です。施設の集約化、次世代の若手医師の育成等の問題が関連してきます。

先日の評議員会でお認めいただいた50周年記念事業ですが、平成28年1月11日(月・成人の日)に日本食道学会記念大会を開催することといたしました。準備委員長として北川雄光理事にご就任いただき、プログラム作成等ご尽力いただいております。本学会の課題につき「日本食道学会のこれから」というテーマで討論会を行います。また、掛川暉夫先生、磯野可一先生、幕内博康先生、安藤暢敏先生4名の名誉会長による座談会「日本食道疾患研究会の創成期と学会への歩み」を予定しております。

先達からの素晴らしい伝統を受け継ぎ、食道疾患を抱える方のためより良い治療を創出し、今後さらなる発展をめざしていくために、ご多忙とは存じますが、是非とも皆様に参加いただき、次の50年へつなげたいと思います。今後とも、ご協力よろしくお願い申し上げます。

ご案内

日本食道学会50周年記念式典

日本食道学会50周年記念大会

【日時】平成28年1月11日(月) 成人の日
午前10時 開始

【場所】一橋大学一橋講堂(学術総合センター2階)
〒101-8439 東京都千代田区一ツ橋2-1-2

日本食道学会50周年記念懇親会

【日時】平成28年1月11日(月) 成人の日
午後1時 開宴

【場所】学士会館
〒101-8459 東京都千代田区神田錦町3-28

【参加費】5,000円

お問い合わせは事務局までE-mailにてお願いいたします。
日本食道学会事務局 E-mail: office@esophagus.jp

日本食道学会50周年にあたって 名誉会長より



歴史に学び、先人の歩みを知る

掛川 暉夫

久留米大学 名誉教授

日本食道学会が50周年を迎え記念行事が行われるとのこと、誠に慶賀に堪えないと同時に、前身である食道疾患研究会の創立に直接関与した一人として、半世紀が過ぎてしまった刻の経つ速さに感慨無量である。

第2代食道疾患研究会々長 中山恒明先生が、その職を退くにあたり、この分野のさらなる発展を願い日本主導による国際学会、すなわち国際食道疾患会議 (ISDE)、それをサポートするためのISDE日本部会を新たに設け、既存の食道疾患研究会との3本柱で診断、治療、研究の向上を図った。このような状況下、私は佐藤博会長の後任として、第4代食道疾患研究会々長の重責を担うことになった。紙面の都合で会長就任に際しての思考過程、活動状況等については述べる余地はないが、時代は本研究会の主目標であった手術死亡率が当研究会全国調査による全国統計で2%以下となり、研究会発足当初の大目標をクリアし遠隔成績向上に向かっていった。特に転移リンパ節対策に主眼を置きつつOncology、Nutriology、Surgical-stressの研究等の分野も広く取り入れ、新世紀 (21世紀) への突入前夜の活気溢れる時代であった。

私は、ある歴史作家の述べた「歴史は大きな時空の力を労せず見せる」、歴史に学ぶことで老朽化の前兆、精神的支柱である理想の衰退を知ることができるという言葉が常に頭から離れない。発展著しい現学会の現状についてとやかく言うつもりはないが、50周年を迎えるにあたり、この機会に先人の歩んできた道程を知り、発足当初の学会の理念、情熱に思いを馳せ、現状を思考してみるのも有意義なことと思いつつ、筆を置く。



日本食道学会半世紀の足跡

磯野 可一

千葉大学 名誉教授

食道疾患研究会が1965年、中山恒明先生を中心に発足して、すでに半世紀が過ぎ、今や、押しも押されぬ日本食道学会としての歩みを進めていることは同慶の至りである。

顧みれば、食道癌治療に外科手術が導入されたのは、1932年、瀬尾貞信・大沢達の日本外科学会の宿題報告に始まり、中山恒明、桂重次、赤倉一郎らを中心とする研究会の皆様方の多大な努力により、手術が食道癌治療の第一選択となった。

この半世紀の間、各施設は各々独立した、各施設で最も良いと思われる方法を教室、施設を挙げて模索、検索しながら、研究会で真剣に討議、検討が繰り返され今日に至っている。

主催された各研究会の主題を見れば、その足跡は明らかである。

なお、その間における食道癌治療の国際的普及と発展は、国際委員会 (ISDE) を通して、本研究会の成果が全国的に波及したためである。

このように、国内的にも国際的にも、本研究会の発展はほぼ初期の目的が達成されたと判断された2002年、第56回研究会 (峠哲哉教授) を最後に、学会への移行が決断された。そして、今村正之教授 (京大) を学会への準備委員長として1年後に研究会は発展的に解消した。

今後は、本学会のさらなる発展を、心から祈願する。



真に患者のための学会であり続けるために

幕内 博康

東海大学 理事/東海大学医学部付属病院 本部長

1965年第1回食道疾患研究会が赤倉一郎会長のもとで開催されてから早や50年が経過したこと感無量です。医師になって45年間、本学会に育てていただいたことを心から感謝しています。

私も2007年、第61回本学会学術集会を主宰させていただきました。メインテーマを“知行合一を目指して—診断から治療への一貫性”とし、主題はポイントを絞ったものとし、会場は2つに限りしました。口先だけの知識や文献の受け売りだけでなく、自ら汗して患者の診断・治療にあたり、知識・技術を患者のために生かしてこそ、真に優れた医療といえると思います。そんな思いから、このテーマを掲げさせていただきました。

2008年に理事長制の導入とともに初代理事に選任していただきましたこと、身に余る光栄でした。会員全員の協力体制の形成、法人格の獲得、専門医制度の確立、研究体制の整備を目標に掲げました。2009年に特定非営利活動法人となり、食道科認定医制 (2008年)、食道外科専門医制 (2009年) が始まり、食道癌診断・治療ガイドラインが改定 (2012年) されました。また、食道ESD偶発症、GERD、食道噴門腺、intraepithelial neoplasia、拡大内視鏡深達度診断基準、食道アカラシア取扱い規約、術前治療食道癌の病理診断などの検討委員会を立ち上げました。

日本食道学会は単一臓器の学会です。それゆえ、学術集会は総花的な内容ではなく、ポイントを絞った命題を設定して深く掘り下げた議論をしていただき、真に患者のためになる学会であってほしいと思っています。

日本食道学会ならびに会員の皆様の益々の発展を祈念致しています。



日本食道学会と私

安藤 暢敏

国際親善総合病院 院長

日本食道学会の前身である食道疾患研究会がスタートした1965年 (昭和40年) は、私が大学医学部へ進学した年で、私が医学の道を歩み出して以来、研究会・学会も同じ歳月を重ねて参りました。2002年の第56回研究会幹事会 (広島) の席上、当時の磯野可一会長から学会移行へ向かう明確な決意表明があり、その後1年間という短い時間で学会発足準備作業を進めました。本学会の歴史の転換点に居合わせ、それに参画できたことは私の貴重な体験となっています。さらには学術団体としての最重要事業の一つである機関誌創刊に携わり、初代Editor in Chiefとして苦労の中からImpact Factor獲得を達成できたことは、今となれば楽しい思い出です。

2011年の第65回学術集会は、その年の3月に東日本大震災に見舞われた仙台での変則開催となりましたが、そこで幕内博康初代理事長の後を継いで2代目理事長の任に就きました。その際に本学会が抱える直近の課題として、専門医制度、学際的学術団体としての学術集会のあり方、食道癌取扱い規約とTNM分類、会員数増加、学会事務所の移転整備、アジア諸国との国際連携などを挙げました。引き続き検討が必要な課題もありますが、松原久裕理事長のもとで成熟期を迎えた本学会のさらなる躍進を期待するとともに、研究会時代から本学会をここまで育て上げられた諸先輩、ご協力いただいた諸兄に深甚なる感謝を申し上げます。

第69回日本食道学会学術集会を終えて



第69回日本食道学会学術集会 会長

小澤 壯治

(東海大学医学部 消化器外科)

本年7月2日・3日にパシフィコ横浜にて第69回日本食道学会学術集会を開催いたしました。ご支援ご協力くださいました日本食道学会会員の先生方に心より御礼申し上げます。テーマを「挑戦とその検証」とし、702演題もの研究成果を発表いただきました。会期中はあいにく雨や強風と悪天候が続きましたが、最終的には約1,300名にご参加いただき、盛況な学術集会になりました。

第69回学術集会ではテーマにちなんで「挑戦」的部分がいくつかありました。第1に国際シンポジウム「アジアにおける食道扁平上皮癌の治療」の実施です。インドのProf. Pramesh、台湾のProf. Lee、そして香港のProf. Lawより各国の興味深い実状を講演いただきましたことは、会員の皆様にとっても有意義なことであったと思います。第2の取り組みとして、主要セッションを日本外科学会や日本消化器外科学会が定義する主題形式に準じ、さらに英語スライドによる発表へ移行したことが挙げられます。司会の先生方にはいつも以上に構成と進行にご配慮いただき、一方、発表者の先生においては入念な準備にて臨まれましたことに感謝申し上げます。お陰様で英語プログラム集の制作につながり、海外から参加された先生方が英語プログラム集を片手に熱心に傾聴され、国際化への一歩を踏み出せたような気がします。第3に、各演題の中から機関誌Esophagusへの投稿推薦演題アンケートを実施したことです。投稿の可否についてアンケートの集計が終了し、現在は会誌編

集委員会の元で編成作業中です。「挑戦」に対する「検証」は論文化することで完遂するものと考えます。研究者(科学者)として体現していただければ、本学術集会の主催者として、これ以上のうれしいことはございません。第4として、主要プログラムの他に「持ち込み企画」(カタバーセミナー)を採用いたしました。プログラムスケジュールに時間的な制限がございましたが、食道疾患治療の発展を見据え、新たな試みを会員の先生方と共有し十分に検証していくことが大事であると考え、急遽、セッションを設定しました。

本学術集会で各先生方に様々な取り組みについて議論いただきましたが、これに呼応するかのよう、世界を舞台にご活躍中の山下泰裕先生が特別講演にて「夢への挑戦」を語られました。その姿勢に食道疾患治療の発展を求め続ける参加者ご自身の活動を重ねつつ「尊さ」や「誇り」を再認識する機会となれば幸いに存じます。そして「食道学への挑戦とその検証」と題した会長講演では食道癌の悪性度診断と新しい治療法に関する研究、食道疾患の低侵襲外科治療・管内内視鏡治療、食道癌の全国登録事業、JCOG臨床研究への積極的協力体制などについて発表させていただきました。多くの参加者にご来席いただき、このような機会を賜りましたことに厚く御礼申し上げます。

最後に、第69回学術集会の運営に際し、貴重なご助言をくださった先生方、共催企業各社や運営サポート会社、全員懇親会を盛り上げてくれた東海大学関係者、忙しい臨床の合間をぬって補佐してくれた教室員に深謝申し上げます。本会は多くの人々に支えられた学術集会であったと実感しています。

今年は食道疾患研究会が設立されて50年目です。翌年の2016年1月11日には50周年記念大会が催されます。その記念すべき年の7月に宇田川晴司先生によって第70回日本食道学会学術集会が開催されますが、東京にて会員の皆様と「食道学の楽しさ」について共有できることを楽しみにしています。

各種委員会・部会報告

[会則委員会]

定款、定款施行細則の変更について

会則委員会 前 委員長

矢野 雅彦(大阪府立成人病センター 消化器外科)

現行の定款、定款施行細則では理事長の選任方法、任期について矛盾がありました。またそれ以外にも東京都からNPO法に照らしていくつかの問題点を指摘されていました。これらを解決するために、以下のように変更しました。詳細は、学会ホームページをご覧ください。

- 1) 理事長の選任: これまでは、総会で新理事が承認された後、新理事会で理事長を選任し、さらにその新理事長を総会で承認することになっており、一度の学会期間中に2回総会を開催しないと理事長を承認できない状況でした。そこで、理事長の選任は理事会の専決事項としました。
- 2) 理事長の任期: 理事長であるためには理事であることが必要条件ですが、理事の任期(1期2年で連続3期まで)の終盤に理事長になった場合(理事長の任期は1期2年で2期まで)、理事の任期終了と同時に理事長の資格が任期途中で消失する事態が発生します。そこで理事長職にある理事は連続3期までという制限をなくすことにしました。
- 3) 入会金および会費の額の決定: 総会での決定を評議員会での決定に変更しました。

- 4) 役員解任: 理事及び監事の解任を社員総会での決議事項としました。
- 5) その他: 役員や評議員の再任等について、これまで定款で細かく規定していたものを、定款施行細則に移し、定款をスリム化しました。実質的な変更ではありません。

[国際委員会]

ISDEとの連携

国際委員会 委員長

北川 雄光(慶應義塾大学医学部 外科学)

日本食道学会は、International Society for Diseases of the Esophagus (ISDE) との連携を模索して参りました。今回、財政基盤を共有しない緩やかな学術的連携関係を締結し、互いにその活動を広報しながら会員の交流を図っていくことといたしました。

2016年9月19～21日にシンガポールで開催されます ISDE 学術集会では、JES セッションが設けられ、食道扁平上皮がんに対する最先端の治療戦略につき、日本食道学会を代表する先生方にご発表いただく予定です。2015年10月29日より一般演題公募が開始されていますので(2016年2月19日締め切り)、<http://www.isde.net/callforabstracts> から奮ってご応募ください。

[NCD部会]

NCDにおける臓器がん登録についての動き

NCD部会 部会長

藤 也寸志(国立病院機構 九州がんセンター)

がん登録推進法に基づく『全国がん登録』の開始に伴って、各学会・研究会による臓器がん登録(食道学会では食道癌全国登録)をNCDに実装しようという動きが始まっています(平成27年度厚労科研〈がん政策研究事業〉「全国がん登録と連携した臓器がん登録による大規模コホート研究の推進及び高質診療データベースのNCD長期予後入力システムの構築に関する研究」)。食道学会も分担研究者として参加しています。NCDにおける臓器がん登録は、すでに膵がんと乳がんが始まっていますが、肝がんや肺がんなどもNCDに実装される方向のようです。入力負荷増、解析の自由度、非外科系の登録の問題などは未解決ですが、今後は食道癌全国登録をどうするかなどの議論が必要になってくる可能性があります。

なお、本年度も、消化器外科学会による「2016年度『NCDデータを利用した消化器外科領域新規研究課題』の公募」が行われます。毎年、公募開始と締切りのスケジュールがかなりタイトです。ホームページや電子メールで周知しますので、ご注意ください。

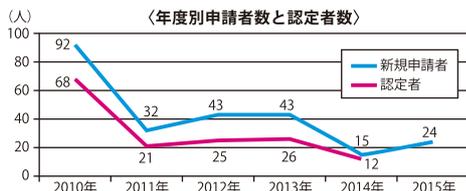
[専門医制度委員会]

食道外科専門医申請者・認定者数と総数の推移

専門医制度委員会 委員長

梶山 美明(順天堂大学医学部 上部消化管外科学)

日本食道学会の食道外科専門医の認定は2010年から開始され、今年で5年を経過します。これまでの新規申請者数と認定者数の年次推移を下図に示します。



申請者数は2010年が92名でその後は30~40名で推移してきましたが、昨年は15名と申請者数が大きく減少しました。今年の申請者数は24名となり、今後は20名前後で推移するものと思われます。また食道外科専門医総数の推移を下図に示します。



2010年の初回認定に先立って2009年から2年間暫定食道外科専門医が認定されました。

2009年の暫定食道外科専門医認定者数は65名であり、昨年初回の更新申請年となりましたが、更新申請者数は44名で21名の方は更新をされなかったため食道外科専門医総数が初めて減少しました。また今年度の更新対象者は2010年の暫定認定者と新規認定者の計80名ですが、更新申請者数は65名であり、15名の方が更新申請をされませんでした。現在の食道外科専門医総数は207名であり、今後も200名前後で

あまり増減なく推移するのではないかと考えられます。

[食道癌取扱い規約委員会]

食道癌取扱い規約第11版発刊

食道癌取扱い規約委員会 委員長

松原 久裕(千葉大学大学院 医学研究院 先端応用外科)



『臨床・病理 食道癌取扱い規約』第11版が10月8日に金原出版より発刊されました。昨年、今年と会員の皆様に2度のパブリックコメントをお願いし、ご協力をいただきました。当初、本年の食道学会に合わせ発刊する予定で作成を進めておりましたが、完成が遅れ間に合いませんでした。何とでもJDDWに間に合うよう作成を進め、食道癌取扱い規約委員会委員皆様のご尽力により、ようやく完成いたしました。

前版の第10版は2007年に発行され、8年ぶりの改訂となります。今回の改訂における基本的考え方、改訂要旨は第11版序に記してあります。改訂要旨に関してはメールにて皆様にすでにご案内し、学会ホームページにも掲載いたしました。リンパ節群分類も変更され、したがって、手術におけるD2の範囲も変わってきます。今後の診療・研究にご活用いただくよう、お願い申し上げます。

また、次期委員長は梶山美明理事をお願いいたしました。まだまだ議論すべき点も残されておりますので次期改訂に向け、皆様のご協力よろしくお願いいたします。

[教育委員会]

平成28年度教育セミナーの概要と食道手術実地研修プログラムのご案内

教育委員会 委員長

土岐 祐一郎(大阪大学大学院 医学研究科 消化器外科)

【日本食道学会教育セミナー】

平成28(2016)年度日本食道学会教育セミナーを、7月4日(月)午後、ザ・プリンス パークタワー東京 で開催します(2015年同様、学術集会前日の午後開催しますのでご注意ください)。

セッション:

1. 周術期リハビリテーション
(慶應義塾大学医学部リハビリテーション医学教室:辻哲也先生)
 2. 食道外科と形成外科
(国立病院機構九州がんセンター形成外科:井上要二郎先生)
 3. 食道機能評価(日本医科大学消化器内科学:岩切勝彦先生)
 4. 食道癌に対する内視鏡治療とその偶発症
(大阪府立成人病センター消化管内科:石原立先生)
 5. 食道癌の疫学と予防(国立病院機構久里浜医療センター:横山顕先生)
 6. 食道癌の化学療法(国立がん研究センター中央病院:加藤健先生)
- ※申し込みなどの詳細は、来年3月ごろ本学会HPに掲載いたします。

【食道手術実地研修プログラム】

本学会会員の皆様に(暫定)食道外科専門医の手術を実際に見ていただく「食道手術実地研修プログラム」を2015年1月より開始しております。学会では学べない実際の手術現場での研修を通じて明日からの診療につなげていただければ幸いです。若手の先生のみならず、食道外科専門医の先生方もさらなるレベルアップを目指して是非ともご参加ください。※詳しくは本学会HPをご参照ください。

【食道癌診療ガイドライン検討委員会】

食道癌治療後のフォローアップに関する 全国アンケート調査の結果報告

食道癌診療ガイドライン検討委員会

委員長 北川 雄光(慶應義塾大学医学部 外科学)

担当委員 藤 也寸志(国立病院機構 九州がんセンター)

食道癌治療後のフォローアップ方法については本邦・海外を問わずエビデンスがなく、各施設の考え方に委ねられているのが現状です。そのため、本委員会では、まずは本邦の実態を把握することを目的として、食道外科専門医認定施設を対象とした「根治切除後と根治的化学放射線療法でCRが得られた症例のフォローアップ方法の実態調査」を行いました。その結果が、下記のごとくEsophagusに掲載されましたので報告いたします。ご協力をいただいた施設に感謝申し上げます。

この情報は、現在作成中の「2017年度版食道癌診療ガイドライン」に何らかの形で反映させたいと考えております。

A Nation-wide Survey of Follow-up Strategies for Esophageal Cancer Patients after a Curative Esophagectomy or a Complete Response by Definitive Chemoradiotherapy in Japan. Toh Y et al. Esophagus 2015 DOI:10.1007/s10388-015-0511-7

【研究推進委員会】

研究推進委員会が活動を開始します

研究推進委員会 委員長

藤 也寸志(国立病院機構 九州がんセンター)

今年度、**研究推進委員会**の活動を開始します。本委員会の活動のイメージとしては、食道疾患の病態・診断・治療などに関する問題点や課題の解決を図るため、委員会主導さらに評議員からの公募によってプロジェクト研究を立ち上げ、多施設チームによる研究やオールジャパンのデータ収集・解析を促進し、世界へ向けて情報発信することです。本年度は委員会として、まず以下の2研究課題を選定し、パイロット的に申請から審査承認のステップの検証を行います。

【研究課題名①】食道破裂の全国実態調査

主任研究者: 桑野博行先生(群馬大学病態総合外科学)

【研究課題名②】食道癌における腫瘍マーカーの臨床病理学的意義に関する多施設後向き解析研究

主任研究者: 島田英昭先生(東邦大学外科学)

研究課題の公募は、平成28年度課題として、本年末頃にホームページ上で行う予定です。食道学会において活発なNation-wideな研究ができるように、会員の皆様のご協力をよろしくお願い申し上げます。

平成28年 第70回日本食道学会学術集会のご案内

食道楽 (第70回日本食道学会学術集会) へのお誘い



第70回日本食道学会学術集会 会長
宇田川 晴司
(虎の門病院 副院長、消化器外科)

第70回日本食道学会学術集会を、平成28年7月4日教育セミナー、5・6日学術集会、という構成で、東京タワーの隣のザ・プリンス パークタワー東京で開催いたします。『食道楽のすすめ ～面白くてためになる食道学～』というキャッチコピーを期待外れにしないために、現在少ない頭(人数の話です!)をフルに使って、シンポやパネルなどのテーマを考えています。この記事が皆様の目に触れる頃にはホームページ(<http://gakkai.co.jp/jes70/>)に発表されていると思いますので、是非ご確認をお願いします。内科の先生も外科の先生も、放射線科や病理の先生も、周術期管理の中心である医師

奮ってのご応募をお待ちしています

【演題募集期間】2015年12月1日(火)正午～
2016年1月21日(木)正午

詳しくは…

<http://gakkai.co.jp/jes70/abstracts.html>

プログラムの概要

<http://gakkai.co.jp/jes70/program.html>



以外の会員も、きっと皆様一人ひとりが日々抱えている臨床クエスチョンのいくつかを見つけ出すことができると思います。

下見に行った会場が気に入って、場所にこだわったら月～水曜日と、変則的な日程になってしまいました。皆様には大変ご迷惑をおかけしますが、頑張っって皆様の記憶に残る学会にしたいと思っています。奮っての演題登録と、多くの皆様のご参加をお待ちしております。ちなみに、どのセッションも、日本語でも英語でも応募できます!

会 告

第72回日本食道学会学術集会



第72回日本食道学会学術集会 会長
加藤 広行
(獨協医科大学 第一外科学教室)

この度、第72回日本食道学会学術集会の会長を拝命いたしました獨協医科大学第一外科 加藤広行でございます。

長い歴史と伝統のある本学会学術集会を開催させていただけることを感謝申し上げますとともに、身の引き締まる思いを感じているところでございます。

学会の会期は2018年の6月もしくは7月で、会場を栃木県宇都宮市にて開催させていただきたいと存じます。宇都宮市は餃子の他にもカクテルが有名な街であり、また近隣には日光や那須などの観光地もございます。学会での熱い議論のあとは食や観光でお楽しみいただければ幸いです。

実りある会となるよう、プログラムにも趣向を凝らして参りたいと存じます。ご指導、ご鞭撻を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

準会員募集のお知らせ

チーム医療を担う医療専門職の方々へ

日本食道学会 準会員募集

食道疾患の臨床では、看護師、薬剤師、リハビリテーション、管理栄養士、臨床検査技師、放射線技師、臨床工学技士、MSWをはじめとした医療専門職のみなさんが主体のチーム医療が不可欠です。

食道に関心を持つ多くの医療専門職の方々へ準会員になって頂き、質の高い研究成果を発表していただくことを期待しています。

入会金 無料 年会費 3,000円

日本食道学会準会員入会手続き
<http://www.esophagus.jp/associate.html>



準会員入会は
食道学会ホームページより

2016年以降の学術集会のご案内

◆ 第70回日本食道学会学術集会

会長: 宇田川 晴司(虎の門病院 消化器外科)
会期: 2016年7月4日(月)~6日(水)
会場: ザ・プリンス パークタワー東京(芝公園)

◆ 第71回日本食道学会学術集会

会長: 小山 恒男(佐久医療センター 内視鏡内科)
会期: 2017年6月14日(水)~16日(金)
会場: 軽井沢プリンスホテル

◆ 第72回日本食道学会学術集会

会長: 加藤 広行(獨協医科大学 第一外科学教室)
会期: 2018年6月または7月
会場: 宇都宮(予定)

*編集後記

日本食道学会は日本食道疾患研究会設立以来、50周年を迎えました。先人のご努力でこれまで発展を続けてまいりましたが、会員数の更なる増加と内科をはじめとする各診療科、医師以外の医療専門職の会員の獲得が急務となっております。

新専門医制度にかかわる作業も進んでおりますが、極めて専門性の高い食道疾患診療に携わる若手のリクルートと教育に更なる力を注いでいくことが現在の組織運営に携わる私達の使命であり、研究・教育・臨床の分野で食道学会の歴史に新しいページを書き加えていく作業を継続していくことが求められています。

明年1月11日(成人の日)に日本食道学会50周年記念式典が行われます。これまでの歴史を振り返り、新しい時代を展望する式典に多くの皆様のご参加をお待ちしております。

また、大変遅くなりましたが本学会ホームページが本年中にリニューアルされます。会員の皆様、一般市民の皆様にとりましてより意義のあるホームページを目指しておりますので、建設的なご意見を賜れば幸いです。(了)

広報委員会 委員長 猶本良夫
委員 阿久津泰典、有馬美和子、出江洋介、熊谷洋一、竹内裕也、奈良智之、前原喜彦、白川靖博、山崎 誠、山辻知樹

特定非営利活動法人 日本食道学会 事務局

〒130-0012

東京都墨田区太平2-3-13 廣瀬ビルディング4階

電話・FAX 03-6456-1339

e-mail: office@esophagus.jp

ホームページ <http://www.esophagus.jp/>